

## 発刊にあたって

社団法人 資源・素材学会  
建設用原材料部門委員会  
委員長 岩崎 孝

(社)資源・素材学会(旧日本鋳業会)の研究調査活動は主に12の部門委員会によって行われており、建設用原材料部門委員会は特に骨材の物理・化学的性状と、その利用拡大を研究調査するために設立された。

部門委員会の活動成果は会誌(特集号)等を通じて公表されるが、本部門委員会では独自出版を試み、シリーズ第1回として論文集「廃棄物の骨材化」を発表するに至ったものである。

「資源」に対する見方は2つあると思う。1つは地下鉱物資源のように、一度使い果たしてしまうと回復が不可能なものが資源とすること、他の1つは資源の定義的な見方、つまり技術の発展に伴って生産に役立つもの、とすることである。後者は要するに、未利用物や廃棄物も、対応する技術さえあれば「資源」になり得ることを示したものであろう。

近頃、いわゆる既存資源の枯渇化に伴い、廃棄物の再利用、再原料化技術が研究・開発され、すでに実用化されたものも少なくない。これはまことに重畳といわねばならないが、使用済み材料のリサイクルだけでは、原資源の本質的な温存や延命にはならない。この点、本論文集には、これまで顧みられなかった廃棄物や未利用物を骨材原料、すなわち新しい資源として取り扱える可能性について言及しているものもある。これはまさに資源たるものの本質を踏まえた研究・技術であり、今後の展開が更に期待される。

なお本論文集は「廃棄物の骨材化」に係るワーキンググループの企画によって編集が推進されたものである。業績を寄せられた各位および機関に厚くお礼申し上げますとともに、取りまとめに尽力された大阪市立大学助教授・山田優氏のご苦勞に、改めて感謝の意を表す。

また建設用原材料部門委員会は設立以来、3つのワーキンググループ、すなわち「骨材のアルカリ反応性」および「石灰石骨材」のグループと本グループによる研究活動を行っており、今後、2グループの研究成果についても、逐次発表していく予定である。

1991年3月